

動かしがたい深刻な与条件：人口減少、少子高齢化…

今後10年の喫緊の課題：低炭素社会、財政健全化…

京都市基本構想に おける関連記述

観光

観光 ～活力あふれるまち～

奥深い魅力と温かいもてなしの心をもつ観光都市
づくりを進めることが重要である。



これまでの主な取組

- ・ 京都ならではのほんものの魅力を発信するため、「京都・花灯路」（東山地域及び嵯峨・嵐山地域を舞台）、「京都おこしやす大学」などを実施
- ・ 国のビジット ジャパン キャンペーンと連携した外国人観光客誘致に向けた海外情報拠点の設置等

平成15年3月から毎年開催

京都・花灯路



平成18年8月から順次設置

京都市海外情報拠点



論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス(追い風)は？ 放置できない問題(向かい風)は？
- ◇ 活用できる資源(強み)は？ 克服すべきこと(課題)は？

外部環境分析（施策を推進するうえで、追い風又は向かい風となる変化や社会的な状況）	
追い風	向かい風
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「心の時代」成熟社会にあって、物質的欲求から精神的充足へ キーワードは「心、癒し、和」 ○ 「京都飛躍の突破口」あらゆる分野のまちづくりを進展させる次世代のエンジン産業 ○ 「観光立国の推進」我が国の国家的課題 ○ 「世界における国際観光の活発化」中国における個人ビザの解禁 ○ 「世界における富裕層の増加」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「少子高齢・人口減少社会」定住人口の減少 ○ 「100年に一度の不況」 新型インフルエンザの影響もあり、京都観光にも打撃 ○ 文化や習慣の違いに起因する観光客と市民の間の問題の顕在化
京都の現況分析（他都市等と比較して、京都の現況が優位又は劣位である事項）	
京都の強み	京都が解決・克服すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本文化の原点」歴史に育まれた類い稀なる多くの「光」観光客の8割が5回以上のリピーター ○ 「修学旅行」少子化の中、100万人台を維持 ○ 「環境モデル都市」世界で環境に対する意識が高揚 ○ 「外国人観光客」5年間で倍増。欧米に高い人気 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「深刻な交通渋滞」観光客・市民双方の不満 ○ 「時期的集中」春・秋に集中 ○ 「場所的集中」特定の観光地に集中 ○ 「多様なニーズに応える宿泊施設」ピーク時にはほぼ満室。世界的知名度の高いホテルや長期滞在者向けの施設が不足

論点2 政策の基本方向

- ◇ 今後10年間の基本的考え、価値観は？

これまでの動き

<現在の方向性>

「未来・京都観光振興計画2010⁺⁵」平成22年1月策定予定

観光客の満足度を高めるため、

『いよいよ旅の本質へ ～世界が共感する観光都市～』

「観光スタイルの質」と「観光都市としての質」を高めます
【7つのプロジェクト、動く。】

- 1 「暮らすように旅する」プロジェクト【重点】
- 2 「歩いてこそ京都」プロジェクト【重点】
- 3 「市民の京都再発見」プロジェクト【重点】
- 4 「心で“みる”京都」プロジェクト【重点】
- 5 「観光客の不満をゼロに」プロジェクト
- 6 「新たな京都ファン獲得」プロジェクト
- 7 「京都の魅力うまく伝える」プロジェクト

<政策を進めるうえでの悩み>

- ・ 時期的集中（秋・春）と場所的集中の緩和
- ・ 交通環境の改善
- ・ 京都の魅力の保全・活用
- ・ 多様な宿泊ニーズへの対応
- ・ 外国人観光客の受入体制の充実
- ・ 観光振興への市民参加

<関連データ>

- ・ 通常4分で行けるところが最大124分（萩原堤四条～清滝道三条、平成20年11月23日調査）
- ・ 12月～3月は入浴観光客数が大きく落ち込み、2月は11月の約3分の1にとどまる

論点3 市民と行政の役割分担と共汗

- ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

論点4 10年後に目指すべき姿

- ◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？